

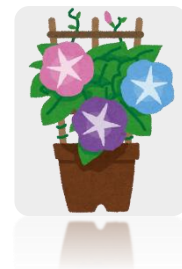
一学期、ありがとうございました。

明日の7月18日(金)に一学期の終業式を行います。

令和7年度の一学期においては、保護者や地域の皆様には、たくさんのご協力をいただき、多くの励ましをいただきました。

先ずは、この紙面にて、厚く御礼を申し上げます。ありがとうございました。

明日の下校後からは、子供たちの楽しみにしていた夏休みの期間に入ります。子供たちにとって、様々な思い出や体験等ができる小学校生活の中でも大切な時期です。学校生活では味わえないことをたくさん味わい、心も体も成長した姿で、2学期に会えることを楽しみにしています。



また、無事故で怪我無く過ごすことのできる夏休みであることも願わずにはられません。本校の子供たちが、8月27日(水)の2学期始業式の日から、全員が元気に2学期の学校生活に臨むことができるよう、保護者の皆様には、子供たちの日々の安全と安心をお願いいたします。地域の皆様には、子供たちとのよりよい関わりを通して、安全と成長への支援についてもよろしくお願いいたします。

本校の教職員も、夏季休業中においては、充実の夏季休業期間として様々な研鑽に取り組むとともに、二学期に向けて心身共に英気を養い、子供たちと充実と成長の二学期にできるよう、夏季休業の日々にしてまいりたいと思います。共々に充実の日々となりますことを望んでいます。

子供たちの様子から

4月から本校の子供たちとの様々な関わりをもってきました。担任ではありませんので、個別というよりは、全体的な関わりが多いところですが、この1学期を振り返ってお伝えしておきたいと思います。もちろん、個人差がありますので、記述した内容の傾向が強いとお考え下さい。

【人懐っこい子供が多いこと。】

○全学年を通して、担任の先生や支援をする教職員との関わりにおいては、自分から声を掛けたり、昨日あったことなどを素直に話したりする子供が多い。

○積極的に関わりを求めたり、声を掛けてほしい様子が見えたりする子供が多い。

以上のことから、多くの子供において、自分から、または、相手からの関わりを求めている子供が多いという傾向があると思います。

【よりよくしようとする思いをもつこと。】

○学年や学級の中で、もっと楽しい学級や学年、時には、学校にしたいというような思いをもつ。

○よりよくしていくために、相談しようとしたり、具体的な取組を話したりする子供がいる。

学校生活における子供たちは、一般的に自分の居場所をよりよくしたいと思っている傾向があります。六小の子供には、特にそういう思いを強くもつ子供がいたり、積極的に話す子供がいたり、とよりよくしたいという思いをもっている子供が多くいるように思います。

【場を与えることで懸命に頑張る子供が多いこと。】

- 自分の出番があることで、懸命に頑張ろうと努める子供が多い。
- 自分の活躍の場が大きいほど、頑張りの度合いを高める子供が多い。

小学生の頃の私は、積極的にすることは苦手でしたが、場与えられることは嬉しく、密かに頑張ろうとする意欲を高めたことを思い出します。六小の子供たちにおいては、個人差は大きい傾向にありますが、多くの子供たちに言えることは、活躍の場があることで自分の力を発揮しようとする子供が多いように思います。

＜子供たちの長所をさらに伸ばす＞

私の思いの1つに、自分のマイナス的な課題や短所を改善していくことは、難しいものであるという思いがあります。管理職になるまでの教育現場では、マイナス要素としての課題を見つけては、改善を図ることに挑戦してきました。しかし、改善に向けて努力をするのですが、なかなか難しく、時間がとても多くかかってしまいました。



そこで、ある時から見方を変えて、マイナス要素として見ていた課題を、プラス要素として逆の方向から見ることにしました。長所を伸ばすことは、意外と伸びやすく、短所を短所のまま取り組むことは、とても伸びにくいものです。短所として捉えるのではなく、長所として見た場合には、どう見ることができるのかが大切であると思いました。

子供たちの様子から見た姿は、プラスの方向で見るか、マイナスの方向で見るかによって変わります。そして、手立ても変わってきます。子供たちのもつ力を最大限に伸ばすために、子供たちの姿をプラス面の角度で見るようにしていきたいと思っています。

【校長のつぶやき】

私の故郷は、和歌山県ですが、私が住んでいた町は、すでに市として発展し、町名も地域名として残っているだけとなりました。^{あざ}字の地名も、もう使われていませんので寂しい限りです。それに、ここ2年の間に両親も亡くしましたので、故郷には、二人の弟家族と数名のいとこ家族がいるところとなりました。

東京に出てきて、もう40年以上となります。故郷から19歳で上京しましたので、本当に遠い遠いところとなっています。詩人で小説家であった室生犀星が詠い、詩人の石川啄木も引用した「故郷は、遠くにありて思うもの」という言葉が、本当に実感を伴う言葉となって、時々私の心を打ちます。

明らかに、友達や関係の深い方々とは、東京に来てからの方が多く、故郷で私を知っている人は、両親との繋がりの方となっていて、もう直接的に関わった友達とは、本当に遠くなってしまいました。

また、もし小学校や中学校、高校時代の友達と出会っても、きっと私のことが分からないのではないかと思います。それくらいに、私自身が大きく変化・変容したように思います。そういう意味では、今住んでいるところが第二の故郷になっています。

今いるところで、自分の思いをしっかりとって、毎日を前向きに楽観主義的に生きていければと思うところです。これからも、多くの方との繋がりをつくり、大切にしていきたいと思っています。

